

決算発表説明資料

(2019年3月期第1四半期)

- 連結決算（経営成績）
 - 工作機械関連事業部門
 - 受注動向
 - 輸送機器関連事業部門
 - 財政状態



連結決算 (経営成績)



公表＝前回業績予想(5/11)
(単位:百万円)

●2018年度 第1四半期業績概要

【受注好調、増収増益(黒字化)】

売上高につきましては、工作機械関連事業部門の国内外における好調な受注を背景に、国内・アジア・欧米のいずれの地域においても売上を伸ばし、大幅な増収となりました。

利益面につきましては、工作機械関連事業部門は増収及び施策効果により黒字化し、輸送機器関連事業部門は引き続き堅調に推移したことから、全社で黒字化となりました。

●2018年度 通期業績見通し

【増収増益】

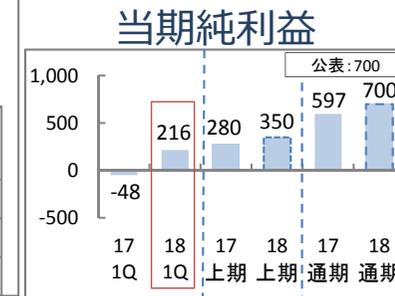
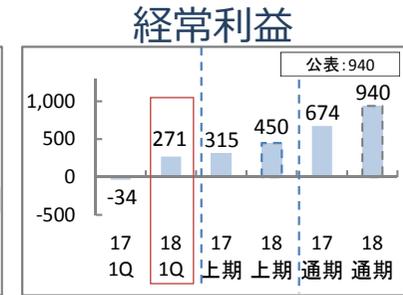
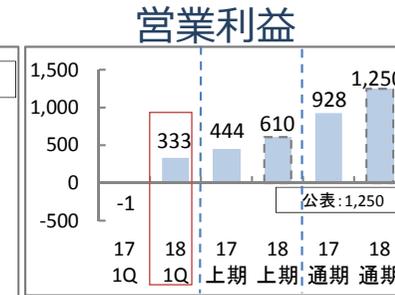
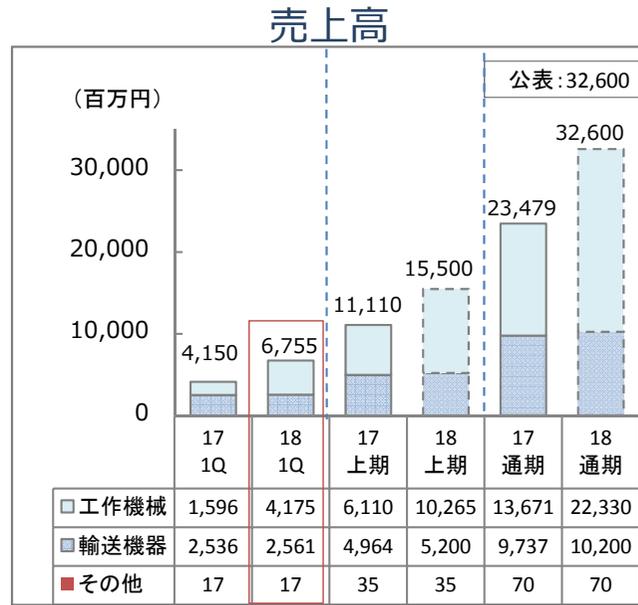
5月11日に公表した業績見通しに変更はありません。

全社では工作機械関連事業部門が好調なことから、売上高32,600百万円(前期比38.8%増)、営業利益1,250百万円(前期比34.6%増)と増収増益を見込んでおります。

工作機械関連事業部門は好調な受注を背景として、システム案件の売上を多く予定していることから大幅な増収増益を見込んでおります。

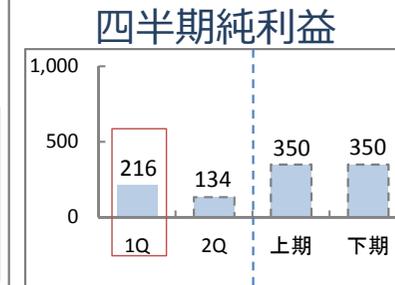
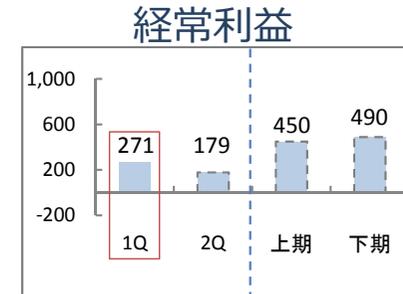
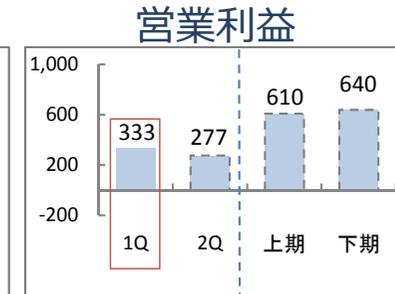
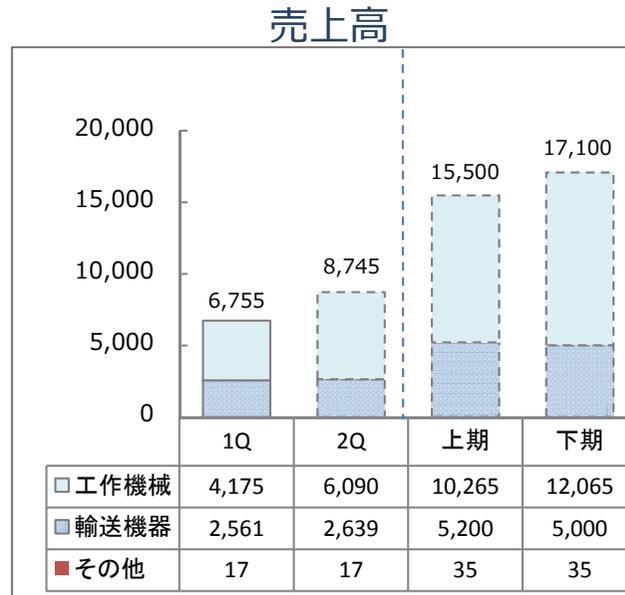
輸送機器関連事業部門も堅調に推移し、増収を見込んでおります。

【前期比較】



※18/上期、18/通期は予測

【四半期比較】



※2Q,上期,下期は予測

工作機械関連事業部門（経営成績）



公表＝前回業績予想(5/11)

(単位:百万円)

【前期比較】

● 2018年度 第1四半期業績概要

好調な受注を背景として、国内システム及びレーザー案件が大幅に増加、アジア・欧米においても前年同期を上回ったことから、売上高4,175百万円（前年同期比161.6%増）と大幅な増収となりました。

営業利益につきましては、増収に加え、損益改善施策の効果によるシステム案件の利益改善により、営業利益150百万円（前期は162百万円の損失）と黒字化しました。

● 2018年度 通期業績見通し

5月11日に公表した業績見通しに変更はありません。

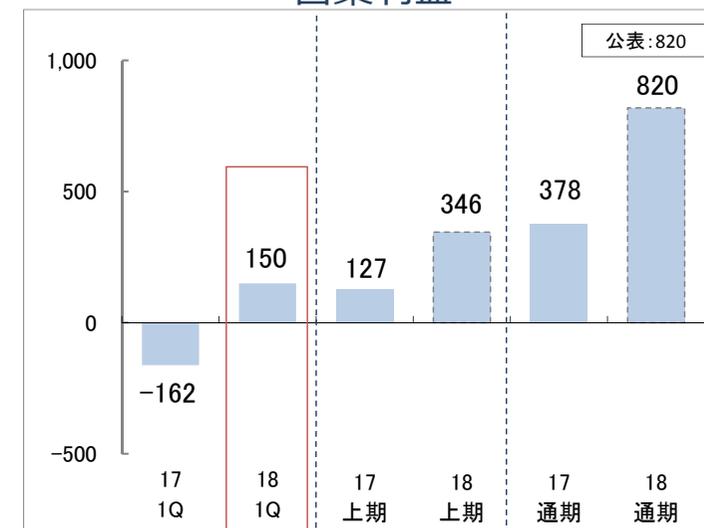
2Q以降もシステム案件の売上が、順調に推移すると見込まれており、受注も中国を中心に高水準を維持しております。

売上高



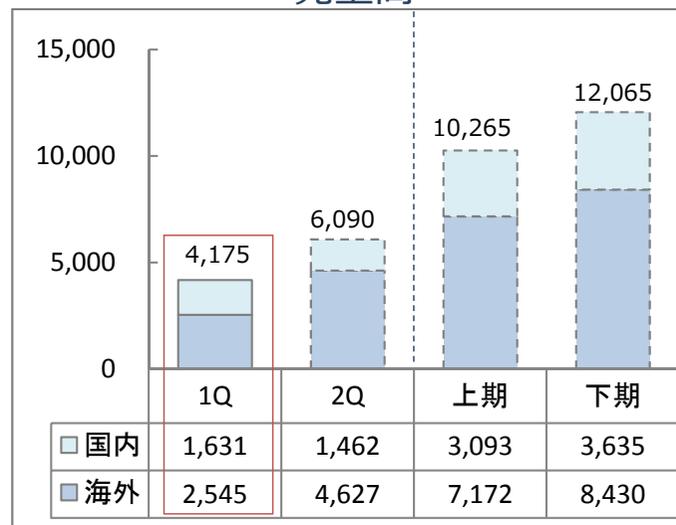
※18/上期、18/通期は予測

営業利益



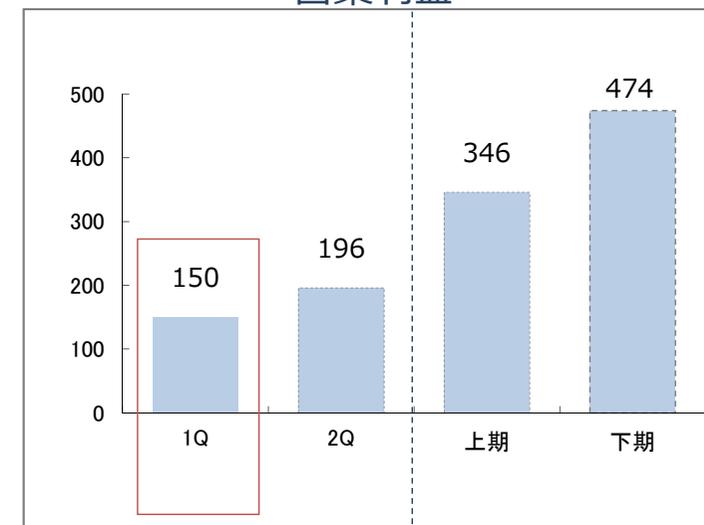
【四半期比較】

売上高



※2Q,上期,下期は予測

営業利益

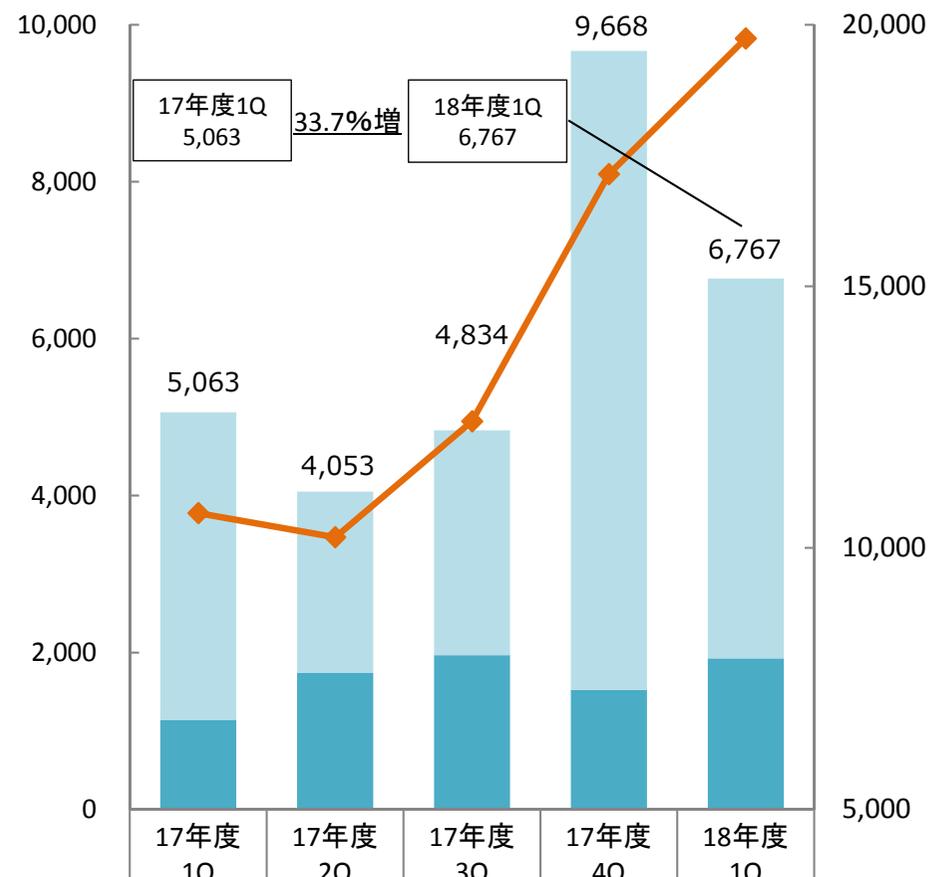


日工会の受注推移は、各月最高額を更新する高水準となっておりますが、中国においては米中貿易摩擦等の影響により、先行き警戒感が強まり、投資鈍化への懸念が高まっております。

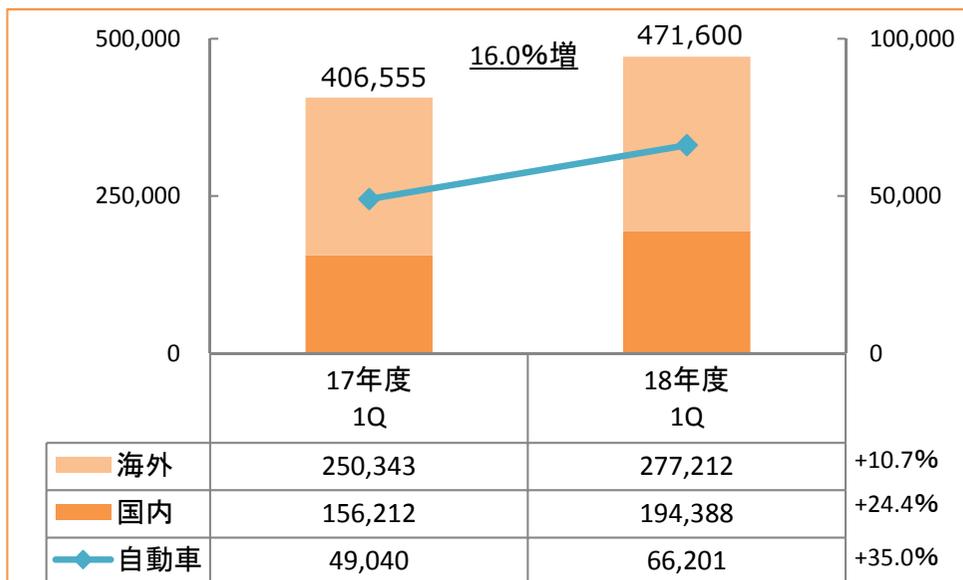
このような情勢の中、当社におきましては、中国を中心に海外受注は好調を維持し、国内受注も増加した結果、日工会平均を上回る伸びとなり、1Qの受注高は6,767百万円（33.7%増）となりました。前期4Q(1-3月)は大型案件の受注もあり90億円を超える高い水準となりましたが、今1Qについても高水準の受注を確保出来ております。

【四半期推移】

☆当社の連結受注高及び連結受注残高推移



☆日本工作機械工業会受注推移



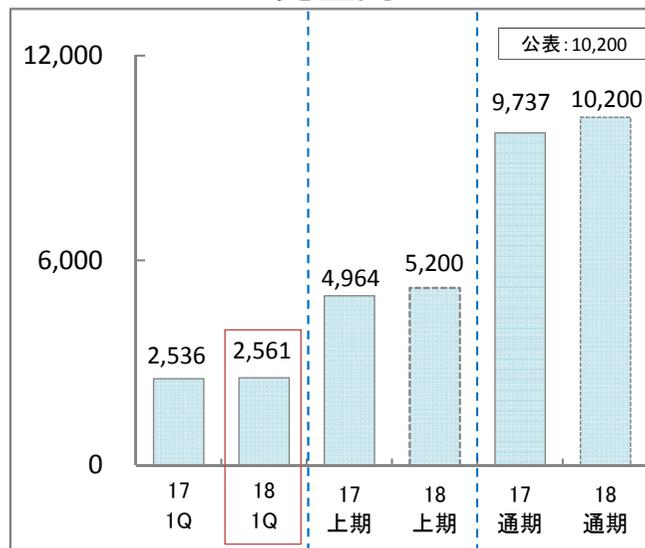
輸送機器関連事業部門 (経営成績)



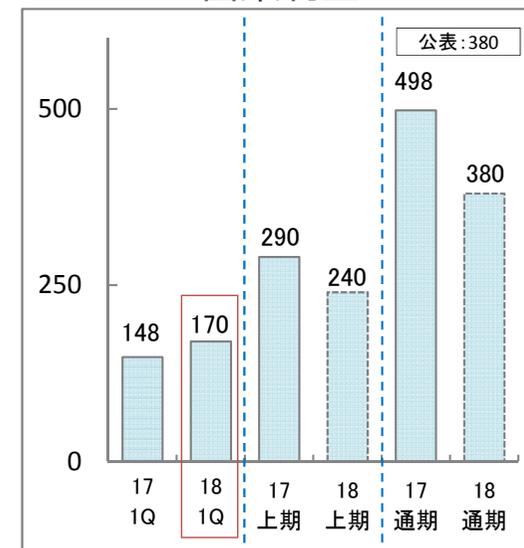
公表＝前回業績予想(5/11)
(単位：百万円)

【前期比較】

売上高



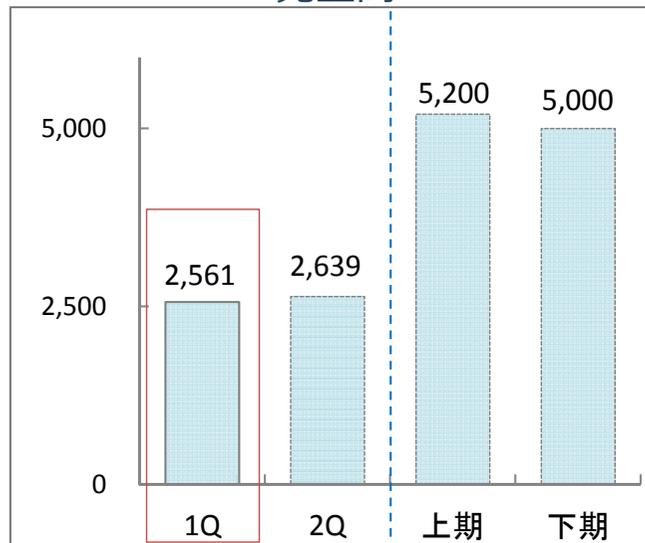
営業利益



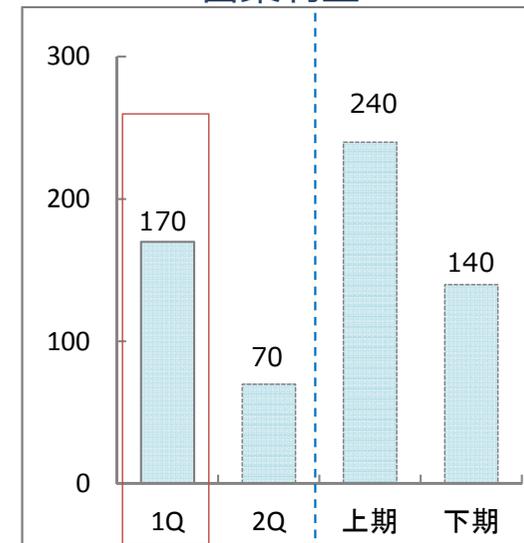
※18/上期、18/通期は予測

【四半期比較】

売上高



営業利益



※2Q, 上期, 下期は予測

●2018年度 第1四半期業績概要

売上高につきましては、ヤマハ部門、四輪部門、ベトナム現地法人いずれも堅調に推移し、売上高2,561百万円（前期比1.0%増）となりました。

営業利益につきましては、固定費削減や生産性向上活動の施策を継続した結果、営業利益170百万円（前期比14.9%増）となりました。

●2018年度 通期業績見通し

5月11日に公表した業績見通しに変更はありません。

売上高につきましては、国内の増収に加え、ベトナム現地法人は安定した収益を見込んでおりますが、売上構成の変化により、売上高10,200百万円（前期比4.8%増）、営業利益380百万円（前期比23.8%減）を予想しております。

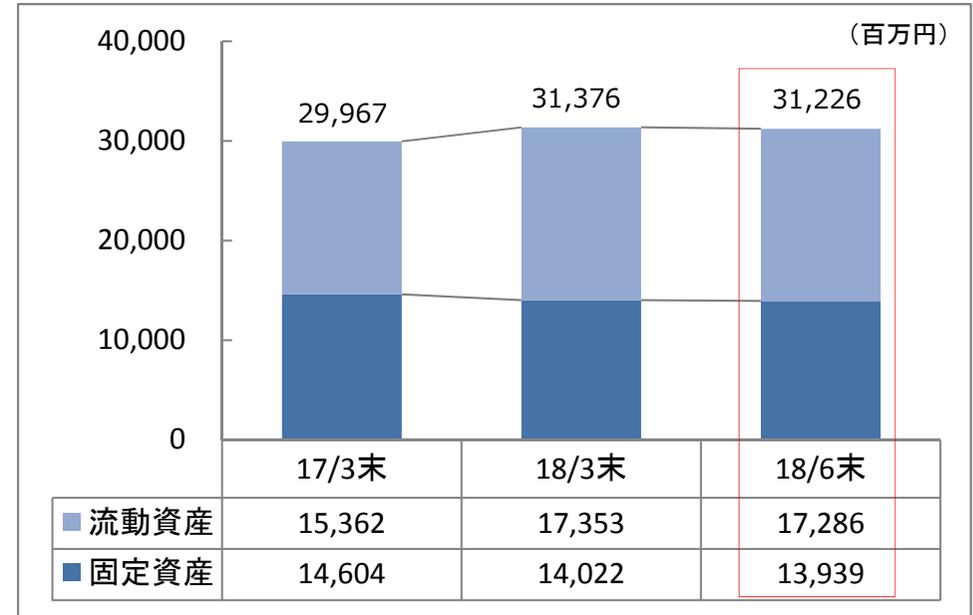
財政状態

総資産

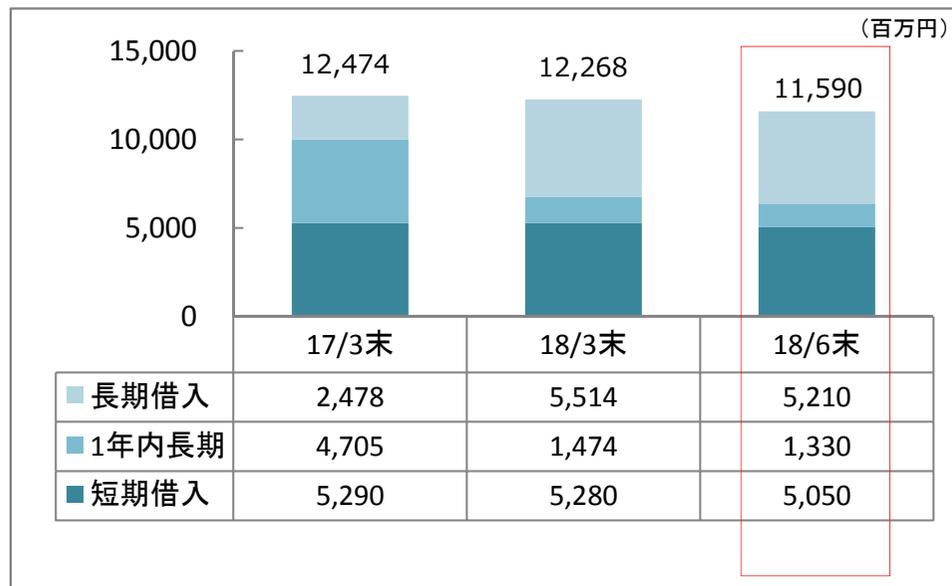
● 財政状態

売上高の増加に伴い、流動資産は前期末同様の水準となっております。

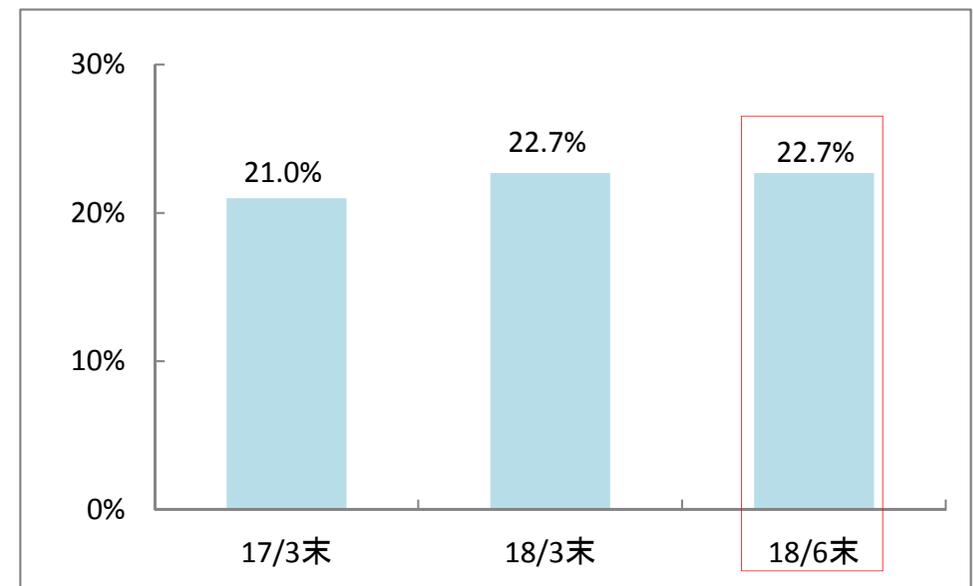
(総資産18/3末比 ▲150百万円)



借入金



自己資本比率



注記事項

本説明資料に記載いたしました業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。